表2－4　見守り住民に対する面接から得られた質的分析の概要-2

テーマ	カテゴリ
見守り困難な点	個人情報が入手できない 家の中まで入り込むことが難しい 誰が見守り対象者かわからない 集合住宅は情報把握が困難 独自の対策をしたいが困難 やる気のある担い手がいない 責任が重く人が少ないので、仕事が多く割に合わない 自治会に入るのは6割 いろいろな意見を持っている人がおり、地域活動が困難 転出入が多いとネットワークを作りにくい

(1) 孤立死のとらえかた

テーマ「孤立死のとらえかた」に関するカテゴリとコードの一覧については、表3に示す。

表3　テーマ「孤立死のとらえ方」に関するカテゴリおよびコード一覧

テーマ	カテゴリ コード
孤立死のとらえ方	**元気な人が独りで急に亡くなることもある。** 「まさか」という人が予期していない形で急に亡くなった。 サロンを開いていた人が孤立死をしていた。 普通に生活していた人が急に独りで亡くなった。 ここ、2、3年40代50代の人の孤立死が圧倒的に伸びてきている。
	低所得者の多い地域に孤立死は多い。 生活保護をうけていて、低所得者の多いところで孤立死が多い。

(2) 孤立死発見のプロセス

テーマ「孤立死発見のプロセス」に関するカテゴリとコードの一覧については、表4に示す。

表4　テーマ「孤立死発見のプロセス」に関するカテゴリおよびコード一覧

テーマ	カテゴリ コード
孤立死発見のプロセス	**新聞がたまっていて孤立死に気づいた。** 新聞がたまっているということで民生委員やヘルパーが発見する。
	悪臭があったので孤立死に気づいた。 悪臭があるということで発見することもある。
	生活保護費をとりにこなかったので孤立死に気づいた。 生活保護費をうけとりにこなかったので役所から親戚に連絡が入り、家に入ったら亡くなっていた。
	孤立死をした高齢者は死後、家族と連絡がとりにくかった。 遺体（孤独死）のひきとりがうまくいかなかった。
	孤立死の場合、亡くなったことも家族が近隣に知らせない。 家族の方が亡くなったことさえ知らせない。

(3) 見守り対象となる高齢者

テーマ「見守り対象となる高齢者」に関するカテゴリとコードの一覧は、表5-1～3に示す。

表5－1　テーマ「見守り対象となる高齢者」に関するカテゴリおよびコード一覧

テーマ	カテゴリ コード
見守り対象となる高齢者	**人に頼ろうとしない高齢者** 判断力が遅れていると困っていることが自分で言えない。 遠慮があるので高齢者は人に頼むことができない。 他人に講釈をして人に頼ろうとしない。 銀行の部長だった人とかプライドが高く、かかわりにくい。 人からは高齢者と言われたくない。 年寄りと話をするのが嫌だという72歳の高齢者。 娘がいると誰かの世話にならなくても大丈夫と思う。 身内でないと家に入れない高齢者がいる。

	人とのつながりを拒否する高齢者 拒絶する人が孤立死しやすい。 **人との交流が少ない独居の男性高齢者** 男性で昔の肩書を捨てられない人は近所で浮いている。 男性は会社生活が長いのでいきなり地域に入れない。 一度近所でういてしまうと声がかけづらい。 いま付き合いがあるのが私くらいの男性高齢者。 （見守りを）やりにくいのは男性。 男性は交流がなくても何ともない。

表5－2 テーマ「見守り対象となる高齢者」に関するカテゴリおよびコード一覧

テーマ	カテゴリ コード
見守り対象となる高齢者	**地域とのつながりが少ない集合住宅に住む高齢者** 公園は流れ者が多くて地域のつながりが少ない。 生活保護を受けている人でも入れるマンションになり、昔のようなコミュニケーションはとれていない。 近所付合いが嫌でマンションに入居、年をとって外出しなくなった。 隣近所が干渉しない。 マンションは入口を閉められると居るのかどうかすらわからない。 マンションや団地は独居が多い。 マンションだと把握がしづらい。
	近所づきあいから孤立している高齢者 自治会費払わないというような家が要注意。 トラブルメーカーも孤立しやすい。 ネコ屋敷だったので近所づきあいがなかった。
	集まりに誘っても反応しない高齢者 集まってくる方は元気な方ばかりでそこに入れない人をどうするか。 サロンにでてこれない人に何かやりたいと思った。 反応する人は元気。 吉本でも釣れない人が３割いる。 反応のない方は閉じこもっている方が多い。 広報を見ない。見る意欲もなく嫌がっている。 チラシを配布しても反応がない。

表5－3 テーマ「見守り対象となる高齢者」に関するカテゴリおよびコード一覧

テーマ	カテゴリ コード
見守り対象となる高齢者	**個人情報保護の理解が異なり自分の情報を話さない高齢者** 連絡先教えて、といってもプライバシーといって教えてもらない。 個人情報を勘違いしている人もいて難しい部分がある。
	家族関係の問題が多い高齢者 家族がお金だけ高齢者にもらいにくる。 妻の被害妄想が強く娘のかかわりも拒絶、高齢者が受診もできない。 家族から疎外されている人も気をつけていかなアカン。
	未婚の息子1人に介護されている高齢者 息子さんは全て介護していて困っていることを一切言わなかった。 介護している息子はストレスを話さない。 未婚の 50-60 代の息子と母親という家族の虐待が心配になる。 30 すぎの息子が母親の介護のため仕事をしていないのが気になる。
	認知機能低下による問題行動がある高齢者 徘徊老人が心配だった。

(4) 見守りのためのテクニック

テーマ「見守りのためのテクニック」に関するカテゴリとコードの一覧については、表 6—1～3 に示す。

表6－1 テーマ「見守りのためのテクニック」に関するカテゴリおよびコード一覧

テーマ	カテゴリ コード
見守りのためのテクニック	**対象者のニーズに応える** 求めている高齢者に対応している。 何かあったら電話してや、というてある。 水道がとまらなくて、「どうしたらええやろ」と電話があった。
	見守りの訪問より、サロンを勧める方がとっかかりやすい 会食会やサロンで見守る。 民生委員を拒絶する人には、教室を勧める。 サロンあるんですよ、と声かけしたら喜んでくれる。

	サロン参加者に電話でフォローしている サロンに来てくれた人には、月に1回電話している。
	既存のサービスを使って、安否確認をする 安否確認のためのヤクルト配達。ヤクルトの配達で孤立死がわかる。 配食サービスは、見守りにもなる。 配食サービスがなくなって、見守りのチャンスもなくなった。 配食サービスを手伝っているが、気配がおかしいと思ったら、79才の男性が倒れていた。 自治会費を集めるのも見守りの機会だったが、今は年に1回。

表6－2 テーマ「見守りのためのテクニック」に関するカテゴリおよびコード一覧

テーマ	カテゴリ コード
見守りのための テクニック	昨日と今日、新聞がたまっているので、どうしたんやろ、と言って声をかける。 心配な人に「何かあったらうちに言ってきてね」とは言っている。 「サロンに来ないし、聞いてみよう」と思った。
	用がなくても近くに行き声をかける 食事をもっていったり、寄れる時には、声かけに寄る。 何も用がなくても、ひょいと顔を出して、2言、3言かわす。 何も用がなくても、ひょいと顔を出して、2言、3言かわす。 本人さんが元気にしてはるというのが、家の前を通ってわかる。
	相手の気持ちに立ち入りすぎないで、見守る 相手の気持ちに立ち入りすぎてもいけない。 声をかける。そっとしておく。その加減というのが相手に対する思いやり。
	情報提供をしている 介護サービスを知らない人に、認定を受けたらできると説明した。 「こういうシステムありますよ」といっても年寄りは、全部見落としている。 電話番号を貼ってあげた。

表6－3 テーマ「見守りのためのテクニック」に関するカテゴリおよびコード一覧

テーマ	カテゴリ コード
見守りのための テクニック	**長い支援の積み重ねにより関係づくりができる**
	熱心に活動してくれる姿をみていてくれたら、心を開いてくれる。
	「こんにちは、いかがですか」とそういうことを日常的に言って、協力的になってもらう。
	高齢者に声をかけるようにしていたら、「○○さん」と言ってくれるようになるんや。
	独居の方全員に声をかけています、と言ったら、「ご苦労さん」と受け入れてくれた。
	ちゃんと挨拶するのも１つ１つの積み重ねだなと思う。
	名前を覚え細かいことでも相談にのることで、今はドアを開けてくれる。
	長いこと自治会長もしているので、この人に言えば何とかしてくれるのではないか、と思われている。
	地域で声をかけたら、答えてくれるのは、僕らだと思う。
	高齢者と長い間付き合っていると見守りをしやすい
	ずーっとの付き合いが大事よね。
	若い時からの付き合いがある。
	見守っている高齢者とは、もともと家族ぐるみの付き合い。
	娘が子供時代の付き合いがあったので、ときどき様子を見に行っている。
	ここに来たときは、いろいろ頼ったりした。
	気心知れている人には、見守りをしやすい。
	「あの人が行ってるなら行こう」という人間関係が大切. 近所付き合, つながり。
	管理組合の名簿から見守り対象者を把握
	管理組合に提出した個人情報で、把握できるものは把握している。
	高齢者への理解を深めることが必要
	「組織」と言うと高齢者はひいてしまう。
	高齢者の動きが鈍くなっていることを理解しないといけない。

(5) 見守りのための組織作り

テーマ「見守りのための組織作り」に関するカテゴリとコードの一覧については、表 7－1～6に示す。

表7-1 テーマ「見守りのための組織作り」に関するカテゴリおよびコード一覧

テーマ	カテゴリ コード
見守りのための組織作り	**既存組織があり、見守りに活用しやすい** 「この組織をつぶしたらあかん」と地域の人にあるからうまくいっている。 砂川地区には、元々地域の組織があった。 砂川には、しっかりした組織があったので、立ち上がりがよかった。
	行政と連携をとる必要がある 行政の担当者が各地区を把握しておいてほしい。 行政と住民との情報の共有が必要。 役所は生年月日がわかるのだから、高齢者の実態を明らかにしてほしい。

表7-2 テーマ「見守りのための組織作り」に関するカテゴリおよびコード一覧

テーマ	カテゴリ コード
見守りのための組織作り	**住民組織間で情報を共有する** 区長さんを通じて、各自治体にお願いすれば高齢者のことを把握できる。 自治会の班長が知っていれば、サービスにつなげやすい。

表7-3 テーマ「見守りのための組織作り」に関するカテゴリおよびコード一覧

テーマ	カテゴリ コード
見守りのための組織作り	**地域包括支援センターは連携しやすい** 役所より包括に電話した方がすぐ動いてくれる。 包括はすぐ動いてくれるのでありがたい。 今は「包括に（電話）したらええわ」と思う。 個別援助ができていないので、包括に相談をした。 包括の職員がサロンに来ているので、高齢者が直接相談しやすい。 何か発言すればすぐ動いてくれる、地域包括支援センター。サロンに来てくれているので、包括の人に言いやすい。 開業医から連絡があって、包括と連携して病院に搬送した。 包括がなかったら（見守りネットワークも）してなかったかもしれない。 包括が中心になり、ボランティアを募集して見守り。

	地域包括支援センターの周知が必要 包括の存在をもっと知らせた方がよい。 包括がこんなんしますよ、というのを周知させていければよい。
	地域包括支援センターと情報を共有したい 住民や包括のそれぞれ知っている情報をすりあわせるのが重要。

表7－4　テーマ「見守りのための組織作り」に関するカテゴリおよびコード一覧

テーマ	カテゴリ コード
見守りのための組織作り	**組織作りの過程での行政のバックアップ** 高齢者の組織を府に登録していた。 区長さんの声がかりで、小地域ネットワークをH11に立ち上げた。 個別が必要ではないかと思っているところに、市からの話に便乗した。
	リーダーとバックアップする人がいれば組織は大きくなる リーダーシップを発揮できる人とそれに協調する人がいれば、トントンと大きくなる。 同じ人が役をしているので、ツーカーになる。
	組織づくりの核が大切 「この会が長く続くために、あなたの力が欲しい」と言って役員に頼んでいる。 組織をする核として、女性の民生委員がいた。

表7－5 テーマ「見守りのための組織作り」に関するカテゴリおよびコード一覧

テーマ	カテゴリ コード
見守りのための組織作り	**男性に支援者になってもらう** 男性が役員をしていると男性が集まる。 男性には、過去の経歴だけでなく、「何かしてあげよう」という気持ちが大切。 男性は、持ち上げないといけない。 男性は、「また1年自分がやります」とは言い出せない。
	地域の絆の強さ 何か行事をするというても、協力的。 同じ年代が多い地域。 一戸建てに住んでいる人は定住してはる。
	転入者が多く、協力し合う思いがあった 九州や四国の出身者も多い。 やっと手に入れたマイホームで、ひとつの町として盛り上げようという思いもあった。 住み始めた時「よろしくな」と言って、近所付き合いが始まった。 入ってきたときから親子みたいな付き合いがある。 開発されたときから住んでいる人がほとんど。 他市から同じ年代の人が集まってきているので、協力しあってきた。 他市からきた人ばかりなので、仲良くしないと淋しかった。
	子育て時の付き合いが地域づくりに生かされている 子育ての時のお母さん同士のつながりがある。 子ども会でお母さん同士の友達ができて、続いている。 子育ての時から皆とお馴染みで、それが今高齢化している。 子ども会つくろう、と団結しやすかった。 子供の成長とともに地域の役をさまざま引き受けてきた。 子育てが終わって、地域に目が向くようになった。

表7－6 テーマ「見守りのための組織作り」に関するカテゴリおよびコード一覧

テーマ	カテゴリ コード
見守りのための組織作り	**近隣住民が気にかけてくれる** 戸が開いているから閉めといて、と近所の人に頼めるのはいい。 隣の人が見守りをしている。 「ちょっとお願いできるかしら」と気軽に頼めるご近所のつながりが大事。 見守る必要のある高齢者がいたら、隣に声かけして、「悪いけどお願いします」と。 「みんな元気？どうしているんやろ」とお互い気にはしている。 近所同士なら、気軽に教室に行ける。 向こう三軒両隣、気安い関係になる。 気にかけてくれる近所の人がいるから、暮らしていける。 本人から写真とりに行くから、一緒に行って欲しいと言われた。 連絡先を聞き、何かあったら対応できるように連携する。 ボランティアだけでなく、隣近所の人に協力してもらって見守ってもらう。 「うちの近所にこんな人いてな、いっぺんみたってや」という話になる。
	近所同士で助け合いたい 高齢者同士でも元気な方は、お隣とかの面倒をみる。 近所同士助け合うという関係はもった方がよい 住民全体が助け合いという気持ちを復活させたい。 災害にしても頼れるのは隣近所になるだろう。 お隣りの見守りもできるという講演会もあるとよい。 役の人にお願いできる地域にしていきたい。

(6) 見守り困難な点

テーマ「見守り困難な点」に関するカテゴリとコードの一覧については、表8―1～2に示す。

表8-1 テーマ「見守り困難な点」に関するカテゴリおよびコード一覧

テーマ	カテゴリ コード
見守り困難な点	**個人情報が入手できない** 民生委員は市の住基ネットは見れない。 近所に引っ越しの言いおきをしてくれたら把握できる。 「どこか行きはったん」と聞いて初めて高齢者の引っ越しを知る。
	家の中まで入り込むことが難しい 立ち入りすぎたら相手に嫌がられるのではないか、という気持ちがある。 挨拶はしても、家の中に入り込めない。
	誰が見守り対象者かわからない 気になる人がみえていない。 本当に困っている人の実態が見えてこない。
	集合住宅は情報把握が困難 マンションだと把握しづらい。

表8－2 テーマ「見守り困難な点」に関するカテゴリおよびコード一覧

テーマ	カテゴリ コード
見守り困難な点	**独自の対策をしたいが困難** 独自の対策をしたいが、困難。
	やる気のある担い手がいない 地域や社会のために一肌脱ぐ人が少なくなってきている。 仕事があるので、若いボランティアが入ってきてくれない。 若い人が少なく継ぐ人がいないので、できる間はボランティアをする。
	責任が重く人が少ないので、仕事が多く割に合わない 地域のことをやる人の数が少なくなってるから、一手にあれもこれもになる。 地域の役員は、責任が重くて、割に合わない。 ずっと色んな役をしているので、民生委員を頼みにきたと思う。 （お年寄りばかりに付き合っていられない。）

	自治会に入るのは6割 自治会に入っているのは、6割くらい。
	いろいろな意見を持っている人がおり、地域活動が困難 葬式の炊き出しを頼んでも「私はイヤだから」とはっきり断られる。 いろんな意見をもっている人がいるので、やりにくい。 近所付き合いがわずらわしいからマンションに入ったのに、なぜ自治会に入らなければいけないのか、という声もあった。 自治会に入るか、どうかも損得でモノを言う。
	転出入が多いとネットワークが作りにくい 転入出が多くて、ネットワークをつくりにくい。 自治会で入ってくれないのは、転入出が関係している。 賃貸で入っている人は、自治会にも入ってくれない。 200～300人が10年間に出入りをしていて、把握は難しい。

2) 見守り組織づくりを支援してきた専門職へのインタビューの質的分析結果

見守り組織づくりを支援してきた専門職へのインタビューから得られた質的分析についてのテーマとカテゴリを表9に示す。

表 9.地域包括支援センター・在宅介護支援センター職員に対するインタビューから得られた質的分析の概要(泉南市)

テーマ	カテゴリ
見守りメンバーのバックグラウンド	民生委員は包括に分からない雰囲気をつかむ 住民の声でネットワークができた
見守り対象となる高齢者	家族や近所とつながりがない高齢者 介入を拒否する高齢者 ごみ屋敷に住む高齢者 低所得の高齢者 介護者が息子である高齢者 働いていない子どもと同居の高齢者
高齢者への支援	見守りネットワークを高齢者に知ってもらう 住民や見守りメンバーから情報をもらい、支援につなげる 見守りのサインとしての生活ぶりを把握して介入する 本人を受け止めて信頼関係を作る
組織・地域への支援	メンバーと顔をつなぎ、連絡をもらえる関係を作っておく 見守り組織が十分ではない 組織化や社会資源の開発が重要である

	個別対応にメンバーと一緒に動く
支援の困難な点	情報を共有できない 高齢者や家族が支援者に問題を隠す 集合住宅の人はつながりが希薄で見守りがいきわたらない 見えない虐待は対処しにくい 高齢者が支援の必要性を感じず介入できない 支援が必要な高齢者の情報を聞くと近隣住民が不安になる 活動が不活発な地域は組織がない 独居である限り孤立死予防は難しい

(1) 見守りメンバーのバックグラウンド

テーマ「見守りメンバーのバックグラウンド」に関するカテゴリとコードの一覧については、表 10 に示すとおりである。

表 10.テーマ「見守りメンバーのバックグラウンド」に関するカテゴリおよびコード一覧

テーマ	カテゴリ コード
見守りメンバーのバックグラウンド	民生委員は包括に分からない雰囲気をつかむ 民生委員や地区福祉委員は包括職員にはわからない雰囲気をつかんで情報をくれる
	住民の声でネットワークができた 住民からの声が上がりネットワークができた 使命感のある方が沢山いたので声が上がってできた 市が地域パワーをつけるために見守りネットワーク作りの啓発をしていた 「週 1 くらいならやってもいい」と住民から言われた 小地域ネットワーク委員の方が個別支援でできていないことをやりいと申し出てくれた 民生委員の体制や小地域ネットワークの基盤がこの地域にできていた 市のネットワークを作ろうという話が今でているのでそれに乗った 活動が活発な B 地域はいい格好しないでトライする 活発な C 地域は PTA からの付合いで信頼関係やチームワークができている

(2) 見守り対象となる高齢者

テーマ「見守り対象となる高齢者」に関するカテゴリとコードの一覧については、表 11－1～2に示すとおりである。

表 11－1.見守り対象となる高齢者

テーマ	カテゴリ コード
見守り対象となる 高齢者	**家族や近所とつながりのない高齢者**
	家からも近所からも見放されている人が必ずいる
	詐欺に引っ掛かる人は家に閉じこもって周りの情報が入らない人が多い
	介入を拒否する高齢者
	「死のうが生きようが放っておいておいてくれ」という
	ごみ屋敷に住む高齢者
	ごみ屋敷になっている家は気にしておかないといけない

表 11－2.テーマ「見守り対象となる高齢者」に関するカテゴリおよびコード一覧

テーマ	カテゴリ コード
	低所得の高齢者
	所得の低い人にはケア資源を作りにくい
	介護者が息子である高齢者
	息子が年金を持っていて生活が苦しくなっても母親は息子を訴えない
	親から分離してお金がなくなった息子をどう支援するかという問題がある
	独身の息子が仕事辞めて親を介護しているのが一番心配
	認知症の母を息子が虐待する
	息子はあまり危機感を感じていない
	キーパーソンが息子だと介入しずらい
	息子が高齢者の生活保護費をあてにしている
	未婚の息子による経済的虐待があった
	虐待事例で息子が拒否すると強制はできない
	働いていない子どもと同居の高齢者
	働いていない子どもが高齢者の年金で暮らしているケースは周りを受け入れない
	しっかりしていない子どもとの同居世帯がとりこぼれるのが怖い
	子どもと同居しているとその安心感で観察しないのが怖い

(3) 高齢者への支援

テーマ「高齢者への支援」に関するカテゴリとコードの一覧については、表 12－1～2に示すとおりである。

表 12-1.テーマ「高齢者への支援」に関するカテゴリおよびコード一覧

テーマ	カテゴリ コード
高齢者への支援	**見守りネットワークを高齢者に知ってもらう**
	メンバーと一緒に民生委員の名前を書いた紙を高齢者の電話の前に貼った
	ネットワークのチラシを張ることで心の保険になっている
	住民や見守りメンバーから情報をもらい、支援につなげる
	配偶者が亡くなってから気にかけて住民がよく見守りに行ってくれた
	住民が早期に発見してタイミングよく受診と治療につながった
	地域の人が声をかけ続けることで当事者も変わっていき、地域が認知症を理解して見守ってくれた
	開業医からネットワークメンバーに連絡が入り動けない状態だった高齢者を発見できた
	閉じこもり予防の啓発をしたら情報をもらえるようになった
	福祉委員や民生委員の人が各自得た情報を教室が始まる前に教えてくれる
	サロンの前に直接相談される
	実態把握調査の前にメンバーから情報をもらう

表 12-2.テーマ「高齢者への支援」に関するカテゴリおよびコード一覧

テーマ	カテゴリ コード
高齢者への支援	**住民や見守りメンバーから情報をもらい、支援につなげる(つづき)**
	見守りのサインとしての生活ぶりを把握して介入する
	雨戸が閉まったままとか小さいことを気に掛け合っていることが実は大きい
	戸建ては雨戸や洗濯物など外観だけでもかなり分かる
	その人の生活ぶりを把握しどのように改善していくか検討する
	司法書士のところに相談が来た時はかなり手おくれ
	認知症の事例であの手この手で状況把握をした
	サービスや経緯を聞いて対応しているのでやりやすい
	ある程度わかって訪問に行く方が入りやすい
	実態把握調査の時は暮らしぶりを観察する
	本人を受け止めて信頼関係を作る
	「どんなことでも相談してください」といって、「なんでこんなことまで」と思うような内容の相談ごとの積み重ね

(4) 組織・地域への支援

テーマ「組織・地域への支援」に関するカテゴリとコードの一覧については、表 13－1～2 に示すとおりである。

表 13-1.テーマ「組織・地域への支援」に関するカテゴリおよびコード一覧

テーマ	カテゴリ コード
組織・地域への支援	**メンバーと顔をつなぎ、連絡をもらえる関係を作っておく**
	メンバーと包括が顔の見える関係を作って通報をもらえるので動ける
	何かあった時に包括の職員の顔がぱっと頭に浮かんでくれるような関係を作る
	存在を思い出して連絡してもらうことで最悪のことは防げる
	地域包括支援ｾﾝﾀｰを知ってもらうのに困った時に動いてくれることを伝える
	会合や地域の催しに行って会話すれば相談してくれるようになる
	介護予防教室に来る高齢者は来られない高齢者の情報をいっぱい持っている
	「いつか何かあったら電話する」といわれる包括でありたい
	近隣だから介入しかねる場合包括に通報してもらいたい
	「あの人に相談したら大丈夫」と思われるように根気強く付き合う
	見守り組織が十分ではない
	市や社協でいろいろな仕組みを作ろうとしているがうまく機能していない
	民生委員を中心に「お元気コール」という連絡網体制を作っているところもある

表 13-2.テーマ「組織・地域への支援」に関するカテゴリおよびコード一覧

テーマ	カテゴリ コード
組織・地域への支援	**組織化や社会資源の開発が重要である**
	地域に社会資源を作っていくのも包括の役割であると思う
	在介の本来の仕事は地域を知り社会資源を開発することである
	地域での受け皿があることで安心してもらう街づくりにしないといけない
	行政も難病の人が家で過ごせる資源を作っていかないといけない
	安心して在宅で過ごせる状況でないと患者や家族は在宅療養に踏み込めない
	個別対応にメンバーと一緒に動く
	地区のケア会議では地域の人ばかりが入っていて困っている人を抽出する
	悩む段階で相談に来てくれたら何らかの手立てを選べる
	誰がどういう風に説明するか想定しておかないと結果が悪くなってもいけない
	サロンで情報提供してくれた人と一緒に状況把握しに行く
	メンバーから情報を聞いたら行ってみる

(5) 支援の困難な点

テーマ「支援の困難な点」に関するカテゴリとコードの一覧については、表 14－1～2 に示す。

表 14-1.テーマ「支援の困難な点」に関するカテゴリおよびコード一覧

テーマ	カテゴリ コード
支援の困難な点	**情報を共有できない** 見守り問題を考える時にどこまで何を言っていいのか言う相手を考える 個人情報保護の壁により民生委員と情報を共有できない
	高齢者や家族は支援者に問題を隠す 旧村のような血縁の強い地域ほど問題を隠す 見守り活動が不活発な A 地域はプライドが高い
	集合住宅の人はつながりが希薄で見守りがいきわたらない マンションの人は近所づきあいを好んでいない マンションや団地は近隣付き合いが薄いので隣の家の名前すら知らない 分譲マンションでも他人に貸していると誰が住んでいるのかわからない 団地は「隣は何をしても関係ない」みたいなところがある 団地に来る人はあちらこちらから来るので把握しにくいところもある 団地特有の環境によってどうしても見守りがいきわたらない 団地では孤立死はすごく多い
	見えない虐待は対処しにくい 親子関係があるので関わりが難しい 介護放棄、年金搾取などの見えない虐待は対処しにくい
	高齢者が支援の必要性を感じず介入できない 家族は助けてほしいと言ってくるが本人が頑として「嫌だ」と言う 見守りが不活発な地域では教室を行っても高齢者は出てきてくれない 隣近所との付き合いを嫌う集合住宅の高齢者は介入を拒む
	支援が必要な高齢者の情報を聞くと近隣住民が不安になる 家族は理解しても高齢者の情報を近所に知らせると近所の方が不安がる

表 14-2.テーマ「支援の難しさ」に関するカテゴリおよびコード一覧

テーマ	カテゴリ コード
支援の困難な点	**活動が不活発な地域は組織がない** 商店街だけの地域は相互の顔を見る機会がない 活動が不活発な A 地域は行きづらい雰囲気がある 活動が不活発な地域は組織というものがない 町内会費を払っていないところなどはネットワークなどできない
	独居である限り孤立死予防は難しい 地域住民がどんなに頑張っても孤立死予防には壁がある

第４章　まとめ

1．アンケート調査のまとめ

１．地域特性別見守り組織の特徴と課題

泉南市の見守り組織は立ち上げたばかりで、メンバーの特徴は女性と高齢者が多かった。役職は地区福祉委員や民生・児童委員が多く、区長や町会長は少なかった。所属地区は 9 地区のうち 2 地区で約 6 割を占めており一部の地区に偏っていた。地域住民への見守りネットワークの認知については約 7 割のものがネットワークを知られていないと感じていた。

以上より、泉南市での見守り組織の課題としては、メンバー自身も高齢であることから組織そのものが高齢化していること、組織自体がまだ発足して間もなく、性別、所属地区、地域での役職も偏りがあり、また組織の長となるものの参加が少ないことから、現時点では活動できる地域や活動内容が一部に限られる可能性があることが考えられた。見守りネットワークの認知については、メンバーは住民にあまり知られていないと感じており、今後は見守りネットワークが住民へ認知される活動も必要であることが示唆された。

２．日常の見守り活動の状況と課題

見守り組織のメンバーが日常の見守り活動の内容と考えるものとして 5 割以上のものが「相談活動」や「地域の高齢者の実態把握」など多くの活動を挙げていた。しかし、実際にはそれらの活動状況は約 3 割程度にとどまっており、まだ様々な活動を行うまでには至っていない状況がうかがえた。具体的活動は「相談を受ける」「挨拶をする」など近隣住民とのつながりを持つような活動を行っていた。また、活動が初期段階であることから、活動全般については PR や対象者の把握など、活動の体制については地域の人たちの協力やネットワークを広げることの必要性を感じていた。

現在見守り活動を実施しているメンバーは約 3 割で、健康状態の良くない高齢者、認知症のある高齢者や家庭環境に問題があると思われる高齢者、独居や高齢者のみ世帯を対象としていた。見守り内容は訪問や電話、近隣等と共同で行っていた。見守りのきっかけは相談、実態把握や会議などの連携のほか変化の気づきなどであり、見守りの困難な点は情報把握と見守り体制に関するものであった。担当地域の高齢者人数や見守り対象者の情報が得られていないものが約 5 割を占めた。

以上の状況より本市の現時点における見守り活動の課題は、見守りメンバーによる対象者の人数や実態の把握が難しいこと、活動初期であるために活動の周知や協力体制の整備が必要であることが示唆された。

３．専門職の見守り支援の有無による活動の実態と課題

泉南市における専門職の見守り支援としては、「小地域ネットワーク」を生かした見守り組織の立ち上げが実施され、活動そのものは今後に期待されるところである。「小地域ネットワークあんしんシステム」の認知度は約 7 割と高いものの活用している割合は約 4 割にとどまっていた。
以上より、泉南市での専門職の見守り支援の活動の課題としてはメンバーが小地域ネットワークあんしんシステムを導入して活用していけるような支援の必要性が示唆された。

2．インタビュー調査のまとめ

1．地域特性別見守り組織の特徴と課題

泉南市高齢障害介護課による「泉南市高齢者見守りネットワーク推進事業」及び砂川地区の地区福祉委員からの要望もあり、砂川地区住民、市職員及び地域包括支援センター職員が参加して、平成19年9月に推進チームを立ち上げ、高齢者見守り組織づくりと企画運営を実施してきている。

現在、見守り組織があることを砂川地区の地域住民に周知し、見守りを希望する高齢者や見守り活動に参加したいボランティアを募集している。また、推進チームでは、砂川地区に住む高齢者の字体把握に努めている。砂川地区のボランティアは、30名登録されているが、実際に見守り対象となっている高齢者は数名である。泉南市の見守り活動はようやく始動したばかりであり、より充実した活動がのぞまれる。

2．日常の見守り活動の状況と課題

見守り組織の住民へのインタビューからは、配食サービスやサロンなど、既存のサービスを使って見守り活動を行っていること、管理組合の名簿から見守り対象者を把握していることなどが挙げられた。また、見守り活動のこつとして、高齢者と長い間付き合っていると見守りをしやすい、用事がなくても近くに行き、声をかける、相手の気持ちに立ち入りすぎないで見守ることなど、高齢者との関係づくりを重視した内容がみられた。見守りを行う際には地域包括支援センターとの連携や行政のバックアップの必要性も挙げられていたが、見守り体制の充実化や組織的な連携体制をつくることが今後の課題として考えられた。

3．専門職の見守り支援活動の状況と課題

専門職へのインタビューからは、見守りを行っている住民と顔見知りになり、常に連絡や情報をもらえる関係を作っておき、事例に対応するときには、住民とともに動く態度が必要であることが挙げられていた。しかしながら、対象となっている地域の中には、見守り組織が十分に機能していない、情報を共有できない、地域によってはつながりが希薄で見守りがいきわたらない、支援が必要な高齢者の情報を把握すると近隣住民が不安になるなどの問題点も挙げられており、見守り活動に関する地域住民への啓発活動および見守り組織体制をさらに充実させていくことが今後の課題である。

4．住民ボランティアによる見守り支援と専門職による見守り支援のあり方に関する提言

住民・専門職へのインタビューから、見守り対象となる高齢者像として、人に頼ろうとしない、人とのつながりを拒否する、集まりに誘っても反応しないなど、人との交流の面から問題があると考えられる内容が多くあげられていた。見守り対象となる高齢者の基準を考える上では高齢者の近隣の人や家族との交流状況は見逃せない内容であることが示された。また、働いていない子どもや未婚の息子と同居している高齢者や家族関係の問題の多い高齢者、低所得層の高齢者、ごみ屋敷に住んでいる高齢者など、社会的に脆弱な生活環境にある高齢者が見守り対象であることが示された。

今後、見守り基準を明確にし、地域住民が行う見守り内容と専門職が行う見守り支援内容を具体化することが必要である。

厚生労働科学研究費補助金

政策科学総合研究事業

高齢者等のセルフ・ネグレクト(自己放任)を防ぐ地域見守り組織のあり方と見守り基準に関する研究
＜羽曳野市地域包括支援センター＞

―平成２０年度初回調査の概要―

平成２０年度　分担研究報告書《NO ２》

分担研究者　和　泉　京　子

平成２１（２００９）年３月